
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時44分）

◇ 関 唯 彦 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、関唯彦君。

（7番 関 唯彦君 登壇）

○7番（関 唯彦君） それでは、壇上より一般質問を行います。

私は大きく分けて3つの質問をさせていただきます。

その一つは、住民の健康についてです。そして、大きな2番目は浸水対策について。それから、3番目として、振興公社についてです。

1番目の住民の健康について。わが町は高齢化率がかなり上がって来ております。その中で元気でいつまでも働けるような、そういう住民の健康について願っておりますので、それについて質問させていただきます。

小さい1番目です。第2期松崎町健康増進計画が2年前に始まりました。2年経って、その結果はどうなったのか。

それから、2番目として、全国の市町村で行われている健康増進をどう受けとめているのか。またそれをどう活用するのかというところを2番目で質問させていただきます。

3番目は、それを元に、結果を元に、これからどのように取り組んでいくのかです。

2番目の浸水対策についてです。これは、昨年7月頃でしたか、豊崎の民芸茶房の裏の所が海の水で浸水していました。これはすごいなと思って南区の方を見に行っただけですけども、そうしますと、もう何軒かは玄関に入れないような状態で水がきていました。ですので、そこで質問をさせていただきます。

温暖化による松崎町の浸水をどう考えるのか。またその対策はというところです。

大きな3番として、振興公社についてです。実際振興公社というのは、町と別組織です。ですから、一般質問に適さないと私も思いますけれども、振興公社の理事長が松崎の町長であり、副町長が副理事長をやっております。また、この一般質問を提出して、議会運営委員会でも異議が出ませんでしたので、公社の組織改革について質問をさせていただきます。

以上、壇上よりの質問といたします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長（齋藤文彦君） 関唯彦議員の一般質問にお答えします。

1、住民の健康について。

1. 「第2期松崎町健康増進計画が始まり2年たったが、結果はどうか」についてであります。

第2期健康増進計画では、年代ごとに個人がすべきこと、地域がすべきこと、行政がすべきことを明記しており、その年代や部門によってばらつきはありますが、効果があったものもあります。

個々の内容については省略しますが、一つの事例として、平成23年度から開始した基本チェックリストは、自らの健康状態を把握、見直すよい機会となり、結果として介護給付費、介護サービス給付費や国民健康保険の療養給付費などが減少傾向にあります。

しかし、がん検診などの受診率については目標の50パーセントに達せず、県総合健康センターの取りまとめによる標準化死亡率の男性1位、女性2位がガンとなっています。また、高血圧等の生活習慣病も県内での順位は高く、今後も対策に取り組まなければなりません。

2. 「全国の市町村で行われている健康増進をどう受けとめているか」についてであります。

高齢化が進む中、全国的に健康に対して意識が高まり、最近は長野県の食育への取り組みが大きく取り上げられております。静岡県も「健康長寿日本一」を目指して各種健康対策に取り組んでおりますが、残念ながら松崎町民の健康状態が向上したという統計は出ておりません。

町民の健康維持は町の施策としても大きな課題ですので、再度、住民の健康状態の分析や、従来から行われている予防・健診・助成事業の検証及び効果を確認するとともに、健康状態が良好と判断された市町の取り組み等の検証を行い、有効性のある事業については積極的に取り組んでいくことが必要かと思えます。

3. 「これまでの結果をもとに、これからどのように取り組んでいくのか」についてであります。

個人がすべきことは十分な休養、適切な栄養の適量摂取、適度な運動であります。町の役割は健康維持に関する情報提供に加え、予防、健診事業であり、それでも発病した場合には相互扶助の保険機能により経済的な負担を軽減することです。

健康増進計画は、特に生活習慣病、がん、脳血管疾患の発症を少なくすることを目的に策

定されておりますが、先ほど述べたようこれらの疾病への対策は、現時点では確認できるような成果は表れておりません。

今後の具体的な取り組みについてですが、現時点の計画にある事業については検証及び効果確認をしながら継続していきますが、新たに健康の基本となる食生活について充実を図り、地区食推協委員、保健師、栄養士等との協力の上、食育事業を推進したいと考えています。また、健康マイレージ事業による健康への意識向上、24時間電話健康医療相談による疾病の早期発見などに取り組みたいと思います。

なお、どのような事業を実施するにしても、広報活動が必要であり、「広報まつぎ」の他に「すこやかだより」を継続して発行し健康に関する情報を提供することといたします。

2、浸水対策について。

1. 「温暖化による松崎町の浸水をどう考えているのか」 2. 「その対策は」についてであります。

私たちが住んでいる地球が、出来上がったのが46億年前といわれていますが、その地球に大きな変化が現れてきています。その一つに「地球温暖化現象」があります。これは私たちの生活から排出される温室効果ガスの増加によって、地球の表面温度が上昇することで、海面上昇や異常気象などが引き起こされています。

こうした現象は当町においても感じることができ、港や低地における大潮の際の冠水など、近年、特に目立つようになってきましたが、このことは災害の危険性を高めるものと危惧しているところでございます。

この対策としては、地球規模で取り組む「温室効果ガスの排出削減対策」は当然のこととして、町独自の取り組みで、排水口へのフラップゲートの設置など、ハード対策の調査研究をしていきたいと考えております。

3、振興公社について。

1. 「公社の組織改革はどのように考えているのか」についてであります。

松崎町振興公社は、「住民の生活文化の向上と地域の活性化を促すとともに公共施設の効率的な管理運営を図り、もって住民福祉の増進に寄与する。」ことを目的に、昭和60年3月28日に財団法人として設立され、平成25年4月1日からは公益法人制度改革に伴い、一般財団法人に移行しております。

振興公社設立に当っては、基本財産3000万円を町が全額出資しており、設立当初から理事長は、町長が兼務しております。

振興公社は、伊豆まつぎ荘をはじめ観光施設などの管理運営などを中心に事業を行っていますが、町が直接行うことも考えられる事業を代わりに行っているという性格もあり、外部に対する信頼を高めることはもとより、観光振興等に対して連携を図ること、振興公社に対し、町の意味を反映することができることから、町長が関わっていくということは、必要であると認識しております。

しかし、一方で、兼務という性格上、振興公社の業務だけを行えるわけではございません。そうした点を解消するために、昨年4月より企画観光課に専任で観光施設管理係長を置き、私の考えを伝え、振興公社と連携を密にし、事業を進めておるところでございます。

また、理事長を、他から求めることも選択肢の一つとして考えています。

以上でございます。

○7番（関 唯彦君） 一問一答形式でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○7番（関 唯彦君） 簡単な質問の方から先にいかせていただきます。

まず、振興公社、それから伺います。先ほど町長が言いましたように、振興公社というのは、地域の活性化、また福祉の増進、これは言わなかったですけど、福祉の増進、それから、公の施設の効率的な管理運営、これが目的の会社ですよね。その会社というので、今、町長が言ったんですけども、組織改革の中で、この管理係長ですとか、そういうものを置くだけでそういう目的が行えるんでしょうか。今現在でも地域の活性化ですとか、公の施設の効率的な管理運営、一部じゃない・・・、かなりのところが赤字になっているところがありますけれども、その辺をどういうふうにしていくのかというのは、管理係長だけで済むんでしょうかね。町長の考えをもう少し深く教えていただけないでしょうかね。

○町長（齋藤文彦君） 私も4年間理事長をやってきて、本当にこれでいいのかなとずっと疑問に考えていることがあります。

熱海市の方で観光協会と振興公社を合体させるというような話があって、注目していたわけですけども、なかなかうまくいかないというような話を聞いているわけでございまして、松崎町の振興公社が本当にうまく動くためにはというのが、いま先輩の人たちにどのようなことにしたらいいかというのを相談しているところでございます。

○7番（関 唯彦君） 私は、ほかの地区でやはり町が100パーセント出資の会社ですとか、そういうところが全国にはいろいろあるんですけども、そういうところをみると、町長ですとか、市長がやっているわけではなくて、そういう専門の方が理事長やいろんな役職に就

いているわけですね。

そして、その中で、観光に特化した人がいたり、いろんなことがあって、それでもってその町が活性化したり、その中には、千葉の方でいけば、観光に対してマイクロバスで連れて来るような、そのようなこともやっているところがあったり、それから、利益を得て、新しい事業を開拓して、それを町の人たちにやってもらおうというような、本当に先進的なところがあるんですね。そういうところをどんどん見に行って、やはり組織を改革していかないと、そういうようなことができるようにならないんじゃないでしょうか。

この目的である地域の活性化や福祉の増進ですとか、そういうものまでいかないと思うんですけども、その辺の考えはあるのかどうなのかということを教えてください。

○町長（齋藤文彦君） 本当に関議員の言われるとおりの、私は今のままではいけないと思っていまして、これから本当にどのようにしていったら一番効率的になるかというのを今いろいろ考えているところでございまして、本当に町長が理事長をやっているというのがずっと心のここにありまして、これは何とかしなければいかんということがあるわけですが、ずるずるべったりで来ているようなところのございまして、また、まつぎき荘を振興公社が委託3年ということで、私もそれなりの覚悟を決めてやっているわけですから、関議員の方でいろいろな良いアイデアとか何とかがあったら聞きたいわけですが、今の私は良いと思っていませんので、それなりのことをやっていきたいなと思っているところでございます。まだ、直接のあれはありません。

○7番（関 唯彦君） できるだけそういうところを探して、振興公社自体に見に行かせて、いろいろ頑張ってくださいと思います。振興公社については質問を終わりますけれども。

それから、地球温暖化についてです。これは温暖化によるものかどうか分からないんですよ。実際高潮で南区の一部の所が玄関から入れないような状態になっていて、私もびっくりしたんですけども、これはそのままに放って置けないんじゃないかなと思うんですね。松崎町というのは、住民の安全・安心、それから、財産を守るのが役目ですので、その辺でもう少し、フラップゲートの対策とか言っていましたけれども、もう少し詳しく話をしたいだけですか。どのような・・・、考えているのか。また、地区からの要望はどうなっているのか。

○町長（齋藤文彦君） 地区からの要望というのは直接出てこないわけですが、私も宇宙からの地球を撮った写真を見まして、南極と北極の氷が本当に半減しているというような

ことを映像で見ますと、これはやっぱり地球はなんかおかしくなっているなというのは痛切に感じます。

私は泳ぐのが好きで、結構海で泳いでいますけれども、今まで見たこともないような海藻とかなんとかが生えてきて、これはやっぱりおかしくなっているなというのを感じるわけでございます。ただ、何をするかというのは、そう簡単にはできるわけではありませんで、本当は土台を高くするのが一番いいんでしょうけれども、町としてどういうふうなことというのは直接考えていないわけで、これからまたそのようなことも考えてやらざるを得ないというところでございます。

詳しいことは、もしあったら、課長の方から説明します。

○産業建設課長（山本秀樹君）　いま町長の話にもあったとおり、やっぱり大潮とかそういう時の水かさが、自分の家も目の前が岩科川になるわけですけども、もう道路にあと10センチ位で上がるくらいにやっぱり水が来るようになっていきます。そうすると、子どもの頃と比べるとはるかにやっぱり水位が上がっているなというような感じがしています。

やっぱり波止場にも何年か前に、もうお盆の時も水が浸かっていたり、南区の浜丁橋の下側ですか、あの辺がだいぶ水かさが増えて中に入って来ているという状況もありまして、ちょうど、浸水対策の基本計画というのを21年に作りまして、この間終わりましたその所の浸水対策と、あともう一つは、渋川のあたりの計画を作ったわけですけども、南区のあたりは前回の計画には載ってはいませんでした。

私もそれを見た時に、なんかあそこもできないのかなということで、浜丁橋の方から来る所にフラップゲートを造って、水かさが増えた時には水が入って来ないようにして、落ちれば水が流れるというようなことで、一度土のうでも置いてみて、あの辺の排水がどれだけ溜まるのか、やってみようかという話をちょうど去年の暮頃ですか、うちの課の中で話をしたところです。また、あの辺はだいぶもうそれぞれの家も実際に土台を高くして、道路からかなり上がった所に土台を作っていますので、とりあえず、あの辺の側溝脇の道路あたりはかさ上げをして、ある程度水が増えても、道路くらいは歩けるくらいにはできるのかなというような感じはしています。

ただ、水勾配はずっと向こうの奥の方から直していかないと、奥からずっと直さないと直せないということがあるものですから、例えば、ため池方式、要するに、枡を作ってそこから強制的にポンプで排出するとか、ここでやったような方法ですけども、そういうような方法とか、いろいろやっぱり計画を練って対応していかなければならないのかなというふう

には感じております。

○7番（関 唯彦君） 積極的にその辺は対応してもらいたいんですけど、どうでしょうかね。町長、今年度そういうような調査をするという考えはあるんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） いま直接ここでは言えないわけですけども、そのようなことも、関議員に言われたことでありますので、考えてみていきたいなと思っています。

○7番（関 唯彦君） これは、あれを見ると年に1回か2回程度なんだろうとは思いますが、ですけども、もう玄関に入れないような状態が見えたんですよね。あれはやはりまずいんじゃないだろうか。町としてね。そのまま放っておくというのは。

やはり今年度でちょっと計画を練ってみるとか、そういうくらいまでする必要があると思います。

ある本によりますと、この高潮に対する対策というのは、ある水準まで様子を見ていう、そういうものではないそうです。もうその水準に近づいた時の対応を講じるのではなくて、どのような水準であっても対策をしていかないと間に合わなくなってしまうというところがある。ですので、そして、連続的に対応していかなければならないだろうということがあるんですね。先ほど道部の方もそういうような傾向になってきているということですから。ですので、これを軽はずみに見ないで、積極的に検討するような、今年度検討するような形でもってきてもらいたいなと私は思うんですけどね。もう一度お願いします。

○町長（齋藤文彦君） 本当に前向きに、検討するということはやらないことだとよく言われますけれども、前向きに検討して、それなりに研究してみたいと思っています。

○7番（関 唯彦君） ぜひお願いいたします。

地域からの要望がないというのもちょっとおかしいのかなと私は思うんですけどもね。本当は地域から要望があってしかるべきものではないかなと思います。

それでは、メインになります。住民の健康増進について。今日の私のメインですけども、こちらの方について質問させていただきます。

先ほどいろいろ回答をいただきました。その中には食生活、食育に関しての改善とか出ていましたけれども、町長はどうでしょうか。この健康増進計画というのは、どちらかというと、私からみると、2年前作ったその時のよりも少し5年後良くしていくというような感じに見えるんですね。健康増進が。

ですけども、私はもっと対応していくべきだと思うんですけども、町長はどうでしょう。住民の健康をどの程度重視している、どのように考えていると言ったらいいんでしょう

かね。どこを目指していると言った方がいいんでしょうか、その辺はどうなんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） どこを目指していくというのはなかなか難しいわけですがけれども、ふじのくにのお達者度というのがあるわけですがけれども、平成22年度のお達者度状況というのですがけれども、それは65歳から元気で自立して暮らせる期間を算出したものですがけれども、男性が32番、女性が23番ということで、非常に低いのかなと思って、松崎は人口が減少するわけですがけれども、少子高齢化の中で、年寄りの皆さん方にも本当に元気で働いて、死ぬまで元気でやってもらわなければいかんと思っていますので、こういうことを私は中心にやっていきたいなと思っています。

それで、ちょっとあるところで調べましたら、要支援の方が、要支援1が99名、要支援2の方が62名、要介護1の方が107名、要介護2の方が94名、要介護3が68名、要介護4が72名、要介護5が55名、合計557人が、この要支援と介護にかかっているわけですがけれども、この要支援、要介護2ぐらいまでの人を本当に元気に戻せるようなことができないのかなと、人間は最終的には弱まってくると自宅介護になるのか、施設に入るかというようなことになるわけですがけれども、今度在宅医療連携拠点というのが西伊豆町で西伊豆病院にできまして、これで3年間研究するというようなことをいっていますので、このようなことから、何といいますかね、力を入れてやっていけば、私はいいのではないかなと思っています。

それで、関さんの答えに直接関わるかわかりませんが、スポーツの好きな人、趣味の多い人は医者いらずというようなことがあるわけですから、もうちょっとスポーツとか、そういうのをもっと盛んにして元気になるように、松崎町は温水プールがあるわけですがけれども、温泉の温水プールというのは非常に全国的にも稀ですがけれども、あそこの使い方が非常に少ないということを聞いていまして、課長ともあれをもっとうまく利用できないかということで、本当に教育委員会とか、各課を横断したプロジェクトチームみたいなやつを作って松崎町が元気になるような形をやっていけばいいのかなと私はこう思っている。直接の答えになるかどうかかわかりませんが、私は考えているところでございます。

○健康福祉課長（高木和彦君） この話になりますと、松崎町の方がどのような健康状態であるかということを説明しませんと・・・。

（関議員「それはまた後で」と呼ぶ）

○7番（関 唯彦君） ちょっとすみません。私の聞き方が悪かったのかもしれませんがね。

回答自体がいろんな幅に広がって、後から聞こうと思うものまで答えてくれましたけれども、私が聞きたいのは、例えば、ピンピンコロリ、長野の方でね。ずっと元気でいて、そし

て、最後に亡くなる時には本当にコロッと亡くなる、寝たきりが少ないという、いつまでも元気にいるというものを目指すのか、もう健康日本一といろんなものをすべて日本一にするんだという、そういうところを目指すのか、そういうところを聞きたかったんですね。

ただ単に健康にすればいいといっても、どういうふうにしたらいいかというのがあやふやだと目標がしっかりしていないとわからないんじゃないか、進めないんじゃないかと私は思ったもので、そこをどう考えているのかということを知りたいです。

○町長（齋藤文彦君） 私は課長と長野県の佐久市のぴんころ大明神に行こうというような話をしましてね。向こうが本当に何と言いますかね、漬物の塩分を取っていたやつを塩分を減らしてもものすごく長生きをするようになったと、それで、亡くなる時には本当に・・・、こんなことを言っては悪いですけど、ピンコロというようなピンコロ体操というのがあるそうですけれども、そのようなものが松崎にとっては一番いいのかなと私は思っているところでございます。

○7番（関 唯彦君） そうですね。だいたい普通ピンピンコロリを目指す市町が多いですよ。それはいろんな病気にかからないで、本当に老衰のように突然亡くなるような、そういうのが本人にとっても良いですし、町にとっても両方にとって良いことだと思いますので、ぜひともそこを目指すということだと思います。そのためには松崎町が今どういう状態になっているかということを知りたいですね。

ですから、先ほど課長が答えいただきそうになりましたそのデータの分析、それをどういうふうに行っているのか、それから、データを国保だけではかなり人数が少ないですよ。国保に入っているのは3000人弱ですよ。半分以下。あとは、協会健保ですとか、ほかの保険に入っていますので、松崎町全体の把握をしていく必要もあると思うんですけれども、そのデータですか、それをどう集めているのか、まずそこから聞きたいと思うんですけれど。

○健康福祉課長（高木和彦君） まず、松崎町の健康状態というのは、特定健診でもわかりま

すけれども、人口動態調査というのがありまして、亡くなった時に、なんの病気で亡くなったかというのを県に報告するような制度があります。

その2つからいきますと、まず特定健診につきましては、国民健康保険に加入している人の中で、40歳から74歳ということですから、全体からすると20パーセントから30パーセント、それに特定健診を受けませんと、今うちの方が40パーセント位の受診率ですので、特定健診だけだと町民の健康状態がみえないような状態になっています。ただし、その数字の中でも、松崎町は男性につきましては、がんで亡くなる方が大変多く、また、そのがんの内容

も直腸がん、膀胱がん、前立腺がん。女性については、乳がん、子宮がん、卵巣がんが多いというような数字が出ています。これは、ぼくはちょっとびっくりしたんですけれども、ただし、よくよく考えてみますと、松崎町の場合は平均年齢が高いわけですから、当然年齢が高くなれば、がんになる可能性も高いなということで考えています。

その中で一番心配なのは、女性の乳がんについてですけれども、賀茂郡のお医者さんでは乳がんの触診ですとか、視診といって見たり触ったりする検査というのを受けられない。そういうお医者さんがいないということで、結果的に女性の乳がんが非常に多くなっています。そういうことで、松崎町を取り巻く医療の分野というのは非常に厳しいんじゃないかなというふうに感じているところです。

ただ、先ほどちょっとお話をしましたけれども、人口動態調査なんかを見た中で、静岡県内の市町の状況なんかはわかるわけですが、がんについても特定健診についても受診率が高いから罹患しないというデータはないようです。逆に健診すれば健診するほど病気が見つかるというのものもあるかもしれません。

そうしてみると、今まで私どもは「健診をしてください」「がん検診を受けてください」これはもちろんこれからも続けますけれども、先ほど町長の話であったように、食育などで病気にならない体を作るというのが一番大切なんじゃないかなというのは、今、感じております。

○7番（関 唯彦君） そのとおりだと思うんですけれど、まず、データをどのように取るかということを知りました。確かに人口動態とかね、そういうのである程度わかると思うんですけれど、ほかの町でやっているのは、3年に一度くらいずつ健康調査というアンケートを住民に全部出したり、その時に食の・・・、栄養のバランスがどうなのかというものはかかるようなアンケートを出してみたり、そういうことをしながら町の住民の健康ですとか、それから、病気の今までの起きている状態ですとか、入院したのか、どれくらい入院したのかとか、そんなことが把握できるような、そういうことをやっているところもありますので、そういうような形でデータを取ったらどうかなというのは思っております。

そこで、いま病気が、がんが多いということなんですけれども、私が本当はそのデータを活用したいというのは、健康に関して、がんが多いということで、それを少なくしていく必要もあるんですけれども、そのデータを取ることによって、松崎町はどういうものが足りないのかというのをみつけるのがまず先決だと思うんですよ。健康な住民をつくるために。例えば、これは新潟の見附市なんですけれども、そこではそういうデータを基に・・・、見たら

その町というのは、筋力が低いと言われて・・・、ということなんですよ。ですので、17カ所に運動の施設を作った。これは松崎町に合うかどうか分かりませんが、そういうような形をとって運動不足を解消して、そういう所に通った人でいくと、通わない人に比べて年間10万円ほど医療費が削減されたというデータもあります。

ですから、その、松崎町が運動不足の町なのか、筋力低下なのか、どこがそういう健康を維持するうえで必要なのかというのをとっていく必要があると思うんですけれども、どうでしょうか。そういうものはとっていくんでしょうか。

○健康福祉課長（高木和彦君） 私は、先ほどがんについて触れましたけれども、このデータはほかにありまして、肥満ですとか、中性脂肪なんかについても数字を持っております。

その中で、例えば、お隣の西伊豆町さんですけれども、言ってはあれなんですけれども、こちらは毎年肥満度が断トツのトップ、22、23、24、トップです。じゃあ、松崎町はどうかというと、中性脂肪で毎年トップ、このような状態です。

先ほど私は言いましたけれども、食育というのはまさにこの中性脂肪なんかにつきましては、食育で体を変えるということが出来ます。また、西伊豆町さんは肥満がトップだよと言ってしまいましたけれども、松崎町でもそんなに低いわけじゃなくて、今現在は県内で6位ということです。そうしますと、肥満というのは、どうしても血管疾患に繋がることもありますので、松崎町はこれからつないでいくとするとやはりこの中性脂肪を抑えるですとか、血圧を抑えるというところに行くのではないかなというふうに思っております。

○7番（関 唯彦君） ということは、だいたい運動不足ということが多いんでしょうかね。

ある程度の・・・、これは事例なんですけれども、大阪府の高石市というところは、やはり運動不足のまちと言われちゃったらしいんですね。データを基に。そこで、毎日ウォーキングをさせて、ある程度募って、そして、2年間位でデータを取ろうかというふうにやっているところがあります。健康保険なんかが累積で10億円の赤字になっていて、それを年間2億円ほど改善していきたいというような形で取り組むという形をしています。やはりそういうデータを基に、松崎は中性脂肪が多いということは運動不足ですとか、何かいろんなものがわかってくると思いますので、それに対する食育、先ほど言いました。ぜひ進めていただきたいなど、積極的に。

これは、2年前に健康について一般質問をさせてもらったんですけれども、それは長野ですよ。長野県というのは、やはり今言ったような食育のこともやっていたけれども、もう一つ特殊なものというのが、保健指導員というのを作っていますね。保健師さんではな

いんですけれども、そういう資格を持ったわけじゃないんですけれども、保健師さんと同じくらいの知識を持った人一つの家に一人を目標にやっているところなんですね。もう健康管理はその家庭からというところに取り組んでいます。長野県では。それを30年位続けているんですよ。しかも、食生活改善推進員というのも一緒に作って、別に。そこではやはり食生活、学校給食をはじめとするんですけれども、そういうところでやって、運動の普及をしたり、その食生活の改善推進員というのは、食生活だけではなくて、運動の普及とか、たばこ、また環境、そういう関係まで含めてやる。しかもこれっていうのは、区の保健委員でしたか、区から1名出してもらう・・・、そういうような形でこの食生活改善員ですとか、保健補導員という形を各区から出してもらう、それを、1年間をやって、ローテーションでいたい女性の主婦の方になるそうなんですけれども、ローテーションで行うことによって、1年間勉強していただいて、いろんな講習会も受けてもらって、そして、一家に一人という形で、そういう保健師みたいなかなりの知識を持った人間をお母さん方で普段の食生活から変えていこうということでやってきて、今現在日本一になっているんですよ。やはりそういうところまで松崎町も取り組んでいかなければならないと思うんですけれど、そういうような事例が各地にあるんですよ。

ですから、ぜひともそういうようなものをして、松崎町を本当に日本一の健康の町にして欲しいんですけれども、町長、どうでしょうかね。

○町長（齋藤文彦君） 本当にそのとおりだと思います。やっぱり「自分の命は自分で守る」「自分の健康は自分で守る」の精神のもとにそのようなことができればいいと思います。

ただ、松崎町がどういうことをやったら一番効果があるのかというのを中で話し合っているかなければならんと思います。ただ、食育に関しては、本当に医食同源といいますか、一味同心といいますか、家族で一緒に食事をするということは、ご飯を食べる、栄養を取ることではなくて、本当にそれ以外のもの、たくさんのもとを取るということだと私は思っていますので、食育と、それと、松崎は先ほども申しましたとおり、温水プールもありますし、本当は町民大会をやったらどうだろうかというようなことをシニアの皆さんに言っているけれど、なかなか進まないわけなんですけれども、やっぱり「あいつも元気だったら、おれも元気でやるぞ」と、やっぱり運動会というのは、皆さんが集まって来ていろいろやると、みんなはありあい、「あいつには負けるか」というようなことができると思いますので、そのようなことがうまくできれば、関さんがいうところのそういうところに向かっていくのではないかなと思っていますので、そのようなことを考えながらやっていきたいと思っています。

○7番（関 唯彦君） ぜひお願いしたいと思います。やはり長野県も一生懸命そうやって取り組んだおかげで、何十年も取り組んだおかげで、そうやって来ているんだと思いますので、松崎町も今やったからといって、すぐ効果が出ないと思います。ですので、できるだけそういうことを毎年毎年取り組んでいただいて、町の健康増進にしていっていただきたいなと思います。

今、町長が温泉の無料なんてことも言っていましたけれども、それを行っているのが兵庫県の豊岡市ですね。そこでは温泉の無料券を配って健康増進に繋がっているところもあるようです。ですから、本当にいろんなところ、例えば、三条市というところがあるんですけれど、三条市というところは地域の格差があります。松崎町はどうでしょうか。健康に地域の格差というのはあるんでしょうか。

○健康福祉課長（高木和彦君） 地域ごとに分けた調査は65歳以上の基本チェックリストで地区別の数字を分けた経過がありますけれども、すみません。いまちょっと手元にないので、細かい数字は言えないですけれども、特に地区でどこどこ地区が異常が多いとかというのはなかったような気がします。

○7番（関 唯彦君） これは三条市というところなんですけれども、一部の地域がほかの地域よりも年間医療費が5万円位安いなんていう・・・、一人当たり。そういうところがあるんですね。そこを調べてみると、路地が多くて歩くことがやはり多いような地域らしいんですよ。ですので、ちょっと近くまで行くにも車を使うということがなくて、できるだけ歩く地域らしいんですね。それが普通に歩いているらしくて、そのために高血圧とか高血糖が少ないようです。それをやろうとして、ほかの地区なんかでも・・・、これは新潟県の見附市なんですけれども、わざと車を一方通行にしちゃって、歩道を大きくして、不便になるんですね。住民からはものすごく不評だそうです。車が使えないといって。ですけれども、そうやって歩かせるという政策を取るところ、そういうところも出てきています。ですので、松崎町も、もしかしたらそういう地域によってかなりの健康、そのバランスというのがだいぶあるんじゃないでしょうかね。そういうところまで見つけて地域にアドバイスしていくという方法も必要じゃないかなというふうに私は思うんですけれど、その辺も考慮にしていればと思っています。どうでしょうかね。

○町長（齋藤文彦君） 本当に三浦地区なんかはほとんど平地がなくて階段ですので、その辺はものすごく強いなと私は感じているわけです。それもやっぱり地域性でいろいろそういうのはあると思います。そのようなことも加味しながら、関議員が言ったとおりのことをいろ

いろ内部で考えながらやっていきたいなと思っています。

○7番（関 唯彦君） これは、名前を挙げますと、長寿いきいき研究所顧問をしている首都大学東京大学院都市システム科学の星教授という方がいて、その人が「ピンピンコロリの法則」というのを出したんですよね。これはどういうことかということ・・・長野がなぜ長生きかというと、高齢者でも仕事をしている。特に農業なんかなんですけれども、農業が多いらしいんですけれども、やはり仕事をしている、無理をしない程度に仕事をしているという人が多いことと、青壮年者の死亡率が低いそうです。特に肝臓がんの死亡率が全国ではかなり低いそうです。C型肝炎による肝臓がんの死亡、これが少ないということですね。

それから、公民館の活動が活発で、生涯学習に力を入れているところが多いそうです。ですから、その辺も考慮していただければなというふうに思います。

それから、もう一つ、やはりもう長生きするにはあまり薬を飲まない方が良いということはその人も言っていました。やはり薬による弊害もかなりあるということで、適量、余分には飲まないということですね。それと、もう一つ、松崎の健康増進計画でもやっているんですけれども、長寿と歯の関係、これは非常に重要だそうです。例えば、歯周病になると口内の血管にそれが入って、心臓の発作ですとか、そういうもの、心臓の炎症を起こしたりして、亡くなる可能性が多いそうです。歯周病になっている人の死亡率は健康の人の2倍から3倍とされているそうです。ですので、その辺を・・・、それから、歯が抜けてしまうとやはり物を噛めなくなると脚力とかバランスの能力、運動能力が落ちてくるということです。やはり定期的に歯の病気の予防と早期発見、早期治療、それに努めた方がいい。やはりこういうこともPRというか、住民に対するアドバイスをする必要があるんじゃないかなと思います。

それから、もう一つ、やはり病気は気からというように、やはり少くらい病気があっても自分は大丈夫だと思っている人の方が長生きしているそうです。これは厚生労働省が出している補助金なんですけれども、地域総合研究費に基づく全国16市町、約2万2000人ですけれども、それを2年間追跡調査した結果、そういうようなデータが出ているということでした。ですから、病は気からと言いますけれども、そういうこともアドバイスする必要があるんじゃないかなと思います。

以上で、最後にまとめまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で関唯彦君の一般質問を終わります。

（午後 3時28分）
